

コッホ現象について

4月1日に施行される結核予防法の改正に伴い、BCGが直接接種になる。これまでBCGはツベルクリン反応検査の結果が陰性の人に対して接種していたが、今後はツベルクリン反応検査を省略してそのまま接種を行う。ただし予診等により感染の疑いの有無を確かめなければならない。それでもなおかつ既感染者にBCG接種を行った場合には、「コッホ現象」が起きる。この現象が起きた際の対応については、先に厚生労働省から「予防接種実施要領」（1月27日付け健発第0127005号）として通知された。

（コッホ現象の対応を含む直接BCGについての詳細は結核予防会において新たに作成した専門家向けパンフレットを参照頂きたい。）

コッホ現象とは

通常、BCG接種後10日経つと針痕部位に発赤が現れ、接種後1カ月～2カ月までに化膿巣が出来るが、BCGを既感染者に接種すると、接種後10日以内に接種部位に発赤・腫脹や化膿等が起こり、通常2週間～1カ月以内に治癒する。これをコッホ現象と言う。

コッホ現象の際の対応

市町村

（1）保護者への説明

BCG接種時に保護者にコッホ現象に関する説明を行い、資料提供を行う。

接種部位に反応が見られた場合、速やかに接種医療機関を受診する。

（集団接種の場合には、市町村等が窓口として対応することと思われる）

コッホ現象が出現した場合は、接種局所を清潔に保つだけでよい。

反応の出現から治癒するまで1カ月以上かかる場合は、混合感染の可能性もあるので医療機関を受診する。

（2）コッホ現象を診断した時

医師は保護者の同意を得て、コッホ現象事例報告書を市町村に提出する。

保護者の同意を得て、報告書を都道府県知事に提出する。

都道府県

厚生労働大臣宛に報告書の写し（個人情報に係わる部分を除く）を提出する。

文責 編集部

新発売

専門家向けパンフレット

現場で役立つ直接BCG接種の手引き

（平成17年3月発行）

接種前の予診・問診、指導、コッホ現象への対応、医療機関での検査など医学的な根拠と、保護者への対応を記した。接種要注意者への問診とコッホ現象への対応は、わかりやすく図・写真を付けた。

1. 予診票の点検
2. 問診
3. 接種後の指導
4. コッホ現象の相談
5. コッホ現象への対応
6. コッホ現象に際しての医療機関での検査

A5判・24頁・定価315(本体300)円（〒140円）

お申し込みは 結核予防会出版調査課

〒204 - 8533 東京都清瀬市松山3 - 1 - 2 4 結核研究所 1階

TEL : 0424-93-6783 FAX : 0424-93-6832 E-mail : book@jatahq.org

URL : http://www.jatahq.org/book/book_framepage1.htm